

# ブナセンターだより 3月号

発行：ブナセンター No.357 2023, 3, 1

## 今月のごあんない

### ■黒松内生物多様性保全奨励事業 成果発表会

主催：黒松内生物多様性保全奨励事業運営委員会

＜黒松内生物多様性保全奨励事業とは＞  
黒松内町の生物多様性の保全・活用に寄与する研究を助成する事業です。成果発表会では、助成を受けた方々がその研究成果をわかりやすく発表します。

**[日時]** 3月5日(日)  
15:00～17:30

**[場所]** 町民センター 大ホール  
※換気のため、定期的に休憩を設けながら実施します。  
※会場からの質問タイムもあります。

**[参加費]** 無料  
**[申込み]** 不要  
※送迎が必要な方は申込み時にご相談ください

### ◆2022年度ブナセンター賞◆

天池庸介氏（北海道大学大学院・研究員）



「黒松内にはどんな野生ほ乳類が  
すんでいるのか？」

### ★最終成果発表★

2020年度受賞者 上木 岳氏(信州大学大学院)



「クワガタムシから迫る  
北限のブナ林の歴史」

### ■森へ行こう「満月のブナ林」

満月の月明かりで歌オブナ林を歩きます。雪面に映るブナの樹形、細かい枝先に宿る月の光は幻想的です。



**[日程]** 3月7日(火)  
**[時間]** 17:00～21:00  
**[集合]** 歌オブナ林駐車公園(17:00)  
**[持ち物]** 野外で活動できる服装、  
スノーシュー、懐中電灯  
温かい飲みもの

**[定員]** 20名  
**[参加費]** 300円 ※ブナさぼメンバーは無料  
**[申込み]** 3月5日(日)17:00までにブナセンターへ

※月が見えない天候の場合は中止します。  
中止の場合、参加申込者に当日15:00までに連絡します。



### ■わくわく土曜日ランド 「自分でつくり木のおもちゃ！」

講師に函館市・木育マイスターの草刈万里子さんをお招きします。ナイフで削ったり、ドリルで穴を開けたり、木工の基本を学びながら、簡単にできるおもちゃ作りに挑戦します。

**[日程]** 3月11日(土)  
**[時間]** 10:00～15:00  
**[集合]** ブナセンター(9:55)

または町民センター(9:45)  
**[定員]** 20名(町内小学生対象)  
**[持ち物]** 作業しやすい服装、リュック、水筒、昼食  
**[参加費]** 300円  
**[申込み]** 前日17:00までにブナセンターへ

ナイフを使うため  
小学1年生は  
保護者同伴で  
お願いします

**陶芸教室** 毎週木曜日 昼の部 13:30～15:30  
夜の部 18:30～20:30

※ブナセンタースタッフが指導しています。  
※初めて参加される方は前日までにご連絡ください。

**木工教室** 毎週木曜日 18:30～20:30

※教室の時間帯を無料開放しています。  
※グリーンウッドワーク(生木からスプーンやへらを作る)用の「削り馬」と削る道具も貸し出しています。

### 企画展 黒松内の樹木part3 黒松内の森と 人々の暮らし

期間 3月30日(木)～5月末  
場所 ブナホール

黒松内の樹木について様々な角度から紹介してきた企画展のしめくりは、「黒松内の人々が、森とどのようにつきあってきたのか」をテーマにします。

昔はどんな  
森だった？

森とどんな  
関わりをもって  
生活していた？

木の特徴と  
使い方



新  
キャラクター  
お  
ま

◆展示を見ながら解くワークシートなどに挑戦すると、  
ブナセンターオリジナル「樹木のキャラクターカード」をプレゼント。

くろまつないQ  
クエスチョン

ブナセンターに寄せられた黒松内の自然に関する質問にお答えする、「くろまつないQ (クエスチョン)」コーナー。最終回の「Q」は…

## Q. ブナは、なぜ「ぶな」っていうの？

昨秋、道外からいらしたお客様からこの質問を受けました。ブナセンターが開館して30年。その間、様々なブナに関する質問を受けてきましたが、これは初めての質問でした。

例えば、「杉」はまっすぐに伸びる木「直ぐ木(すぐき)」からという説もあれば、すくすく育つという意味の「すくやか」からなど、木の名の語源はどれも諸説あり、はっきりとはわかりません。ブナの語源についても同様ですが、今回は2つの説を紹介します。

### A.①「ぶんりの木」

風がブナ林を吹き抜ける時、葉と葉がこすれあう振動で「ブーン」といううなり声を発することがあるから「ぶんりの木」。これが転じて「ぶなの木」になったのではないかという説があります。

ブナセンター職員も、冬から早春にかけて、落葉せずに枝に残ったブナの枯れ葉が、風にゆれて「ブーン」と音をたてているのを聞いており、これが「ぶんり」のことかも？と思うことしばしばです。



▲冬、枝に残った  
ブナの枯れ葉

### A.②「ぶ」と「な」で“小さな食糧”

「ブ」は「生(フ)」で「生えている」という意味。「ナ」は「肴(ナ)」で菜・魚の類を意味し、「生・肴(フ・ナ)」で「生えている肴」、すなわち「食べ物のなる木」という意味ではないかと考える人もいます。

また、国語学者・北条忠雄氏によると、「ブ」は「実肉」を指す言葉、「ナ」は小さくかわいらしいものにつける愛称の接尾語(例えば、雛(ヒナ)の「ナ」など)で、「小さくかわいい実肉」なのでは、とも。

古代よりブナが食糧として利用されていたことがうかがえます。



▲ブナの実  
脂肪分が多く、美味しい

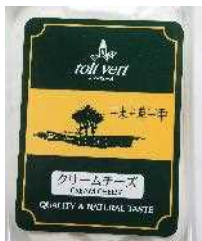
参考図書：「森林で遊ぼうシリーズ①おもしろい木の話」.北海道立林業試験場、「母なる森・ブナ」.工藤父母道.思索社

くろまつないQ  
クエスチョン

プラス！

先々月号のこのコーナー「Q.ブナって漢字でどう書くの？」の中で「櫟」という漢字が、黒松内町独自の漢字として特産品の名前に用いられていることを紹介しました。その記事を読んだ方から「以前トワ・ヴェールのアイスクリームの名前になっていた「一木一草一雫」(いちもくいつそうひとしずく)というの、ブナ林と関係あるんですか？」という質問をいただきました。

トワ・ヴェールがオープンした1993年から、味と内容量をリニューアルした2016年までの間、特産品アイスクリームのブランド名だった「一木一草一雫」は、当時、歌オブナ林入口の看板にあった『一木一草一かけらの石ころにも生命があります。それはみんな美しい宝です。きびしい自然の中で何十年、何百年かかって育ったものです。草木や石をとれば森林法で罰せられます。黒松内営林署』という一文からヒントを得て名づけられたものです。トワ・ヴェールの前身である町産業課・特産品開発室が名づけました。



「一木一草一雫」は現在クリームチーズの名前として残っている。



かつての歌オブナ林入口の看板。1997年、現在の看板に立て替えられた。(写真：「黒松内自然ガイドブック」1991年発行より)

### 【3月の休館日】

6・7日 / 13・14日 / 20日 / 27・28日

資料整理のため休館：3月24日～26日

(ブナセンターは通常毎週月曜日と火曜日が休館日です)

- 「ブナセンターだより」はブナセンターHPからPDFファイルをダウンロードできます。
- 「ブナセンターだより」郵送ご希望のかたは、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、希望回数分の84円切手を同封してブナセンターまでお送りください。

発行所：黒松内町ブナセンター

〒048-0101 寿都郡黒松内町字黒松内 512-1 TEL (0136)72-4411 FAX (0136)72-4440

メール bunacent@host.or.jp HP <http://bunacent.host.jp/> fb <https://facebook.com/kuromatsunai.bunacent>